

# 一国山城跡現地説明会資料

2005(平成17年)3月19日(土)

岡山市教育委員会文化財課

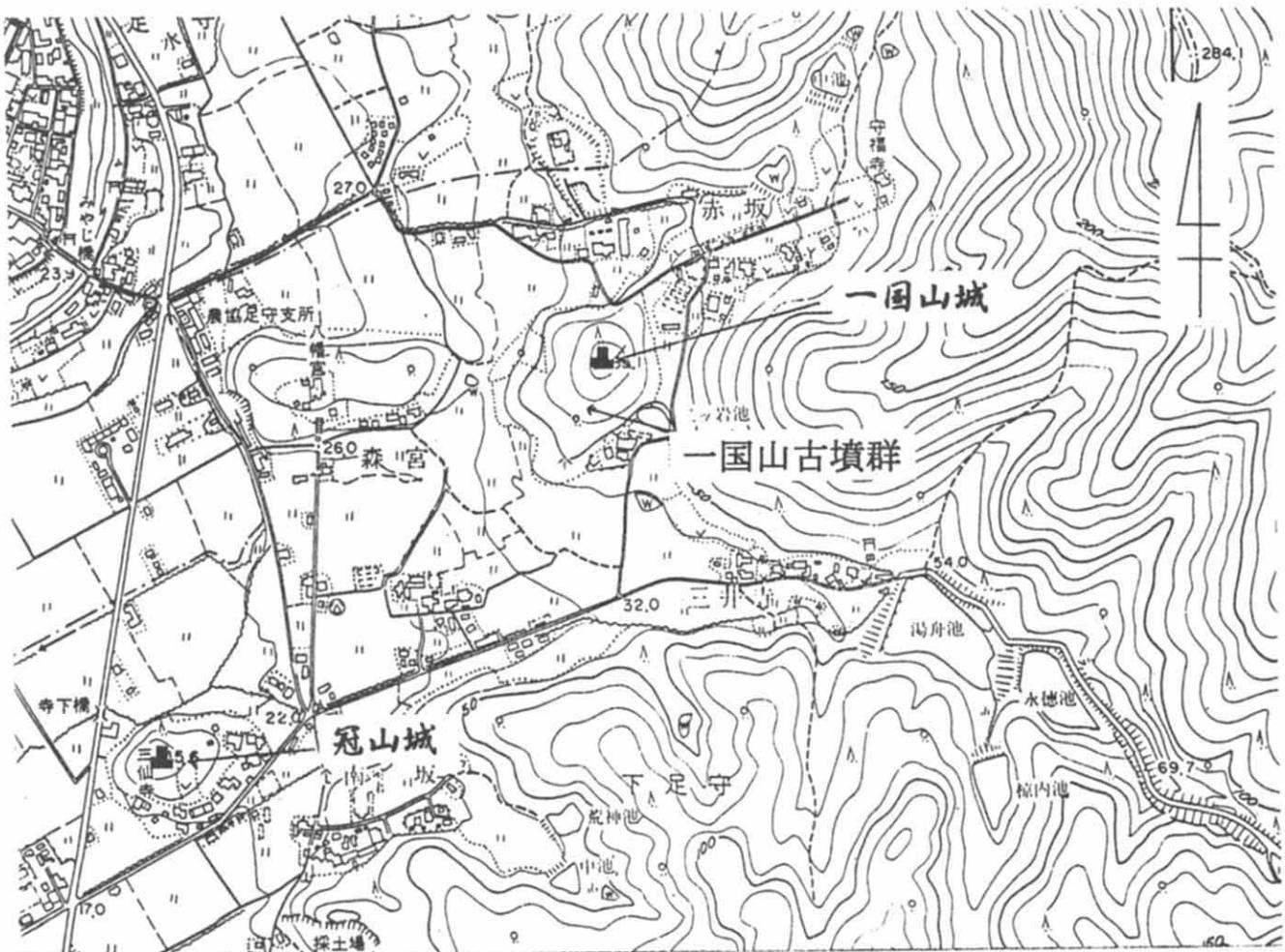
岡山市教育委員会では、一国山における土取り事業に先立ち、昨年12月から発掘調査を行ってきました。

一国山は、これまで、頂上部分が平坦になっているため、城跡ではないかといわれており、またその平坦面に土器が散布していることが知られていましたが、詳しいことはわかっていませんでした。

今回の調査で、土塁や郭(曲輪)といった、山城の施設が確認され、この山がかつて城であったことが明らかになりました。

また城跡の南側にのびる尾根上には、今まで知られていなかった古墳群も発見されました。

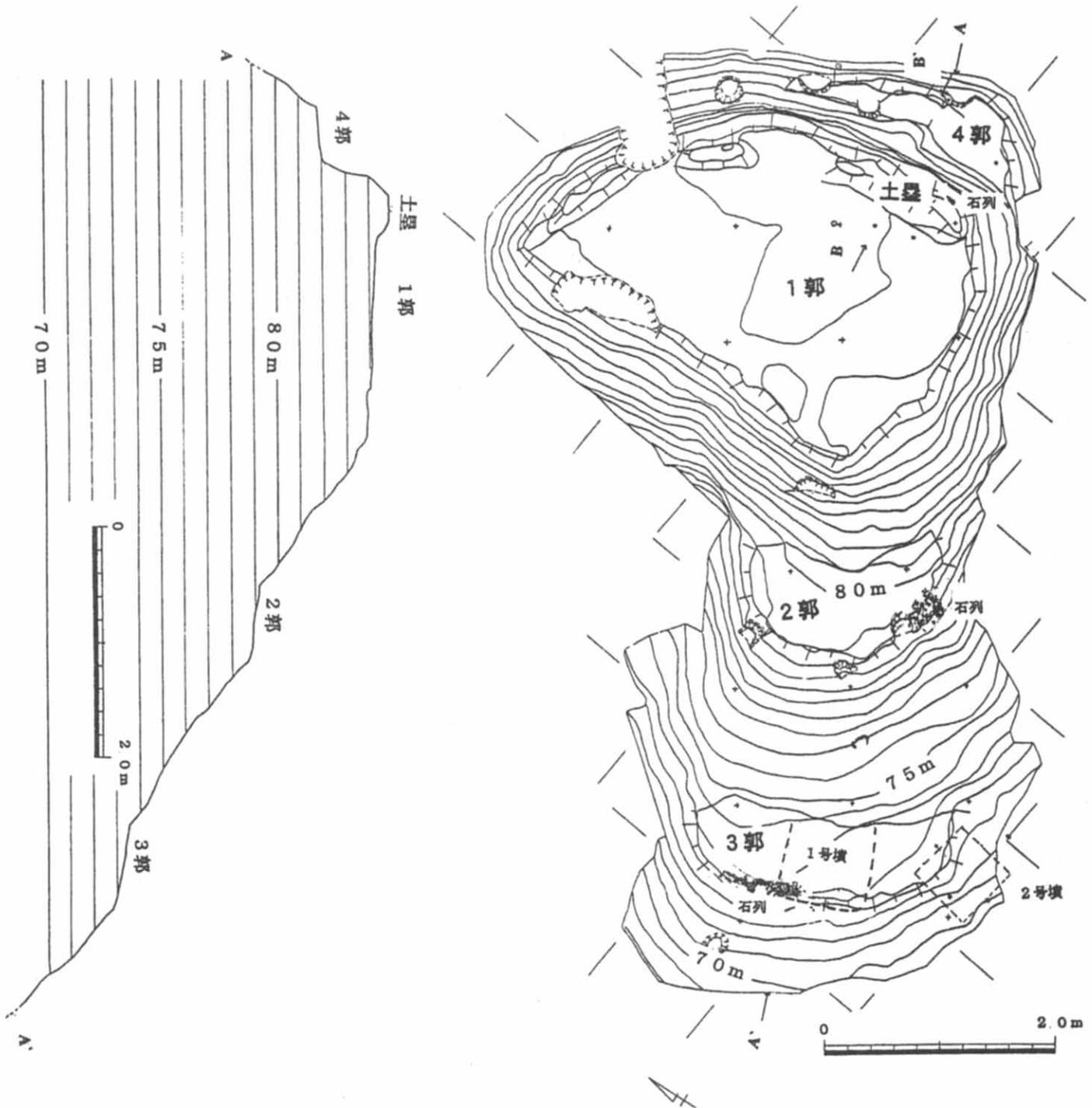
以下、それぞれの遺構の簡単な説明を行っていききたいと思います。



調査地 位置図

## 一国山城跡

標高約85mの一国山頂上を平らに造成し、主郭としています。さらに主郭を中心に、南西方向にのびる尾根上に2段、東側の急斜面上に1段の合計3つの「郭」を造っています。また、頂上の平坦面の東端には、土を帯状に高く盛り上げ「土塁」が造られていました。「土塁」の下側の斜面は特に急角度になっており、「切岸」が造られていたようです。「郭」の端には石を並べて簡単な土止めの施設が造られていたようです。

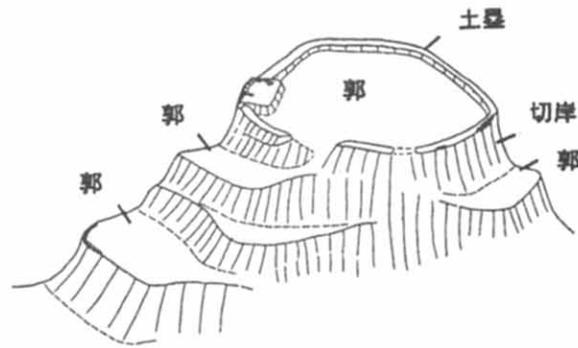


一国山城 地形測量図

そのほか、火を焚いたと思われる地面が赤く焼けた場所や、石で周囲を囲った穴も見つっていますが、建物の跡は見つかりませんでした。とても簡単な造りの城だったのかもしれませんが。

元和元年（1615）に著された「中国兵乱記」の記述には、天正十年（1582）、当時中国地方の支配者であった毛利氏と争っていた織田信長が、毛利方の城である冠山城を攻める際、軍勢を集めた場所の一つとして「一国山の峰」の名前が挙がっています。「一国山の峰」は一国山のことであろうと思われます。

城を造ったときに造成した土の中からは、主に室町時代の備前焼、亀山焼などの陶器、銅銭や釘などが見つかっています。このことから、城ができる以前から、一国山には人の手が加わっていたと考えられます。



模式図

中国兵乱記  
秀吉御備中冠山城攻附城主榎屋七郎兵衛備の事

同年三月十七日、織田御次丸は龍王山へ構陣城、入城、羽柴秀吉は四塚門前妙現山の峰々に構陣城、金床山に家々の旗を立て冠山城を遣卷仕、信長御より為二両使、杉原七郎左衛門・千石權兵衛を被遣、口上を、神主堀家掃部城内へ被遣著越候。城主榎屋七郎兵衛事、武勇達人と被及二聞召たり。今度屬信長次丸秀吉と申談、西國の先鋒御頼被成由被仰下候。七郎兵衛御請に、信長御任御意度儀なれども、数年隨毛利家信長御と御境目に在城仕、輝元・陸景懸意不接処に、今度背毛利家御身方仕候へば、失忠義候間、毛利家に罷有差防戦、其上にて切腹可仕由御返答申上候へば、三月二十日寅の刻未横雲の不引に、三井谷南のうね日指山の峰に築陣城、北の平・願子谷山の峰、一国山の峰、朱福寺山へ人数を備へ、寺坂口、反山筒坂口押寄、三方より責懸り、三方の櫓に付、乾堀へ飛入り、塀櫓を引破らんとす。城内も待向ふ敵なれば少も不疾、將軍義昭公御旗輝元御の赤旗城中に押立、矢倉狭間より鐵炮を打懸る事如二雨降、上方勢あぐみ深ふ間に、死亡手負数を不<sub>レ</sub>知。朱福寺口は、秀吉御御旗本杉原七郎衛門先手にて、稠敷賈給ふ。城兵も手賦り能く、榎屋興七郎・同孫市郎・佐野和泉・庄九郎・守屋新之丞遂に防戦、籠城堅固に相抱処に、三月二十四日夜、伊賀忍者城中へ火を付くれば、鐵炮の薬庫に火移り騒動なし、寺口の塀を乗越、秀吉御軍勢城内へ乱入る時、加藤虎之助は城兵武井將監と相戦ひ、將監を討捕、杉原七郎座衛門・内山久藏・美濃部與藤次、城兵秋山新四郎と迫合ひ、秋山を討捕り、上勢城内へ入乱る。伊賀・甲賀の者所々に火を付け候時、榎屋七郎兵衛申すは、敵以二数万騎一口々を相押候へば、不<sub>レ</sub>遲時到来也。各某と不<sub>レ</sub>離一手に退給は、秀吉御の旗本へ切入、敵の大將不<sub>レ</sub>對捕は我々可<sub>レ</sub>枕並と堅約し、果喰山迄切退ける。此所に荒木平太夫・堀尾茂助有<sub>レ</sub>備、城兵を取巻き對んとす。榎屋七郎兵衛・松田左門・三村孫太郎大勢切て入相戦ふ。城大將榎屋七郎兵衛父子、同孫市郎・鳥越左兵衛・林三郎左衛門・岩田内膳、果喰山廟の内に劍菱の赤旗押立て、身方を待居けるに、首二つ三つ不<sub>レ</sub>持參はなし。榎屋父子其外も五カ所七カ所手負ひ、備自由不<sub>レ</sub>成に付、榎屋孫市郎を御本陣へ遣し、御注進申上候。

## 一国山古墳群

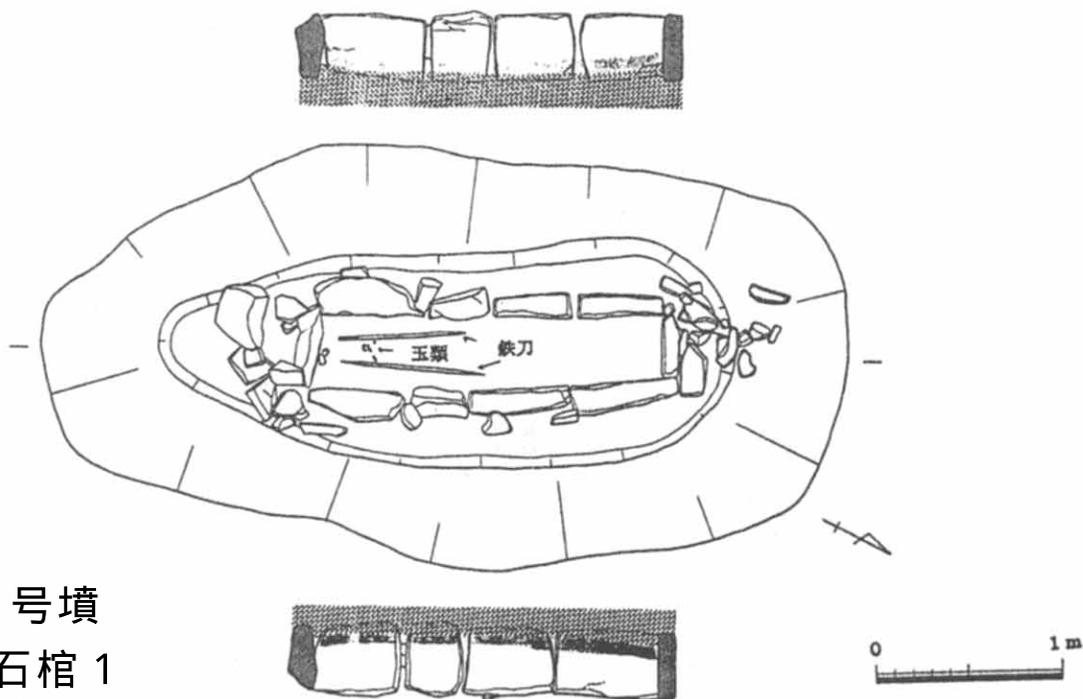
一国山城の第3郭の南に今回見つかった古墳群です。城の第3郭付近に1基（一国山1号墳）、第3郭の東側斜面上に1基（一国山2号墳）、および第3郭の西側の南に延びる尾根上に箱式石棺が6基（石棺3～8）発見されました。

### 一国山1号墳

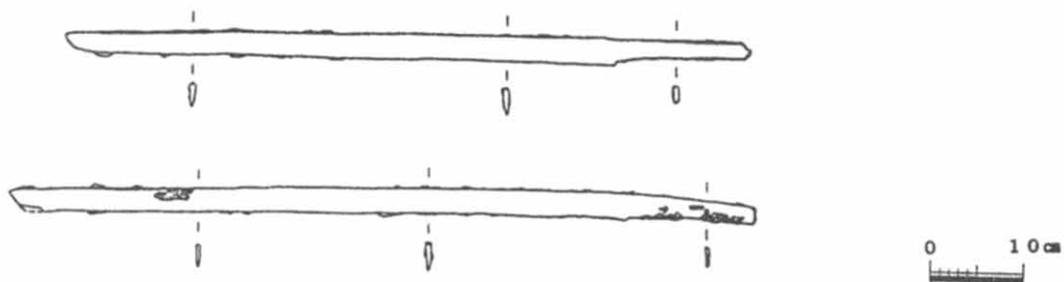
第3郭から見つかった、2基の箱式石棺を埋葬施設に持つ古墳です。緩い斜面を平らに削りだして造られた古墳と思われます。

2基の石棺のうち一基は未盗掘で（石棺1）、中には鉄刀が二振、ガラス玉、勾玉や、管玉などが副葬されていました。また、周囲の地形と、古墳とを区画する溝の中からは、被葬者への供え物と考えられるたくさんの土器が見つかりました。

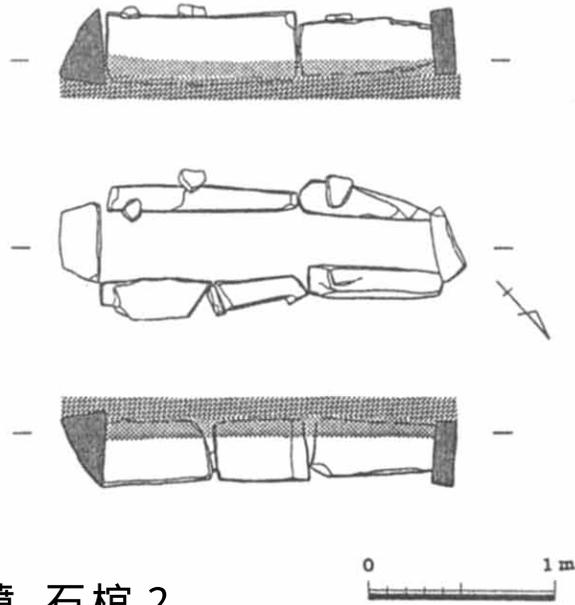
時期は、これらの土器の年代から5世紀後半頃と思われます。



一国山1号墳  
石棺1



一国山1号墳石棺1出土 鉄刀



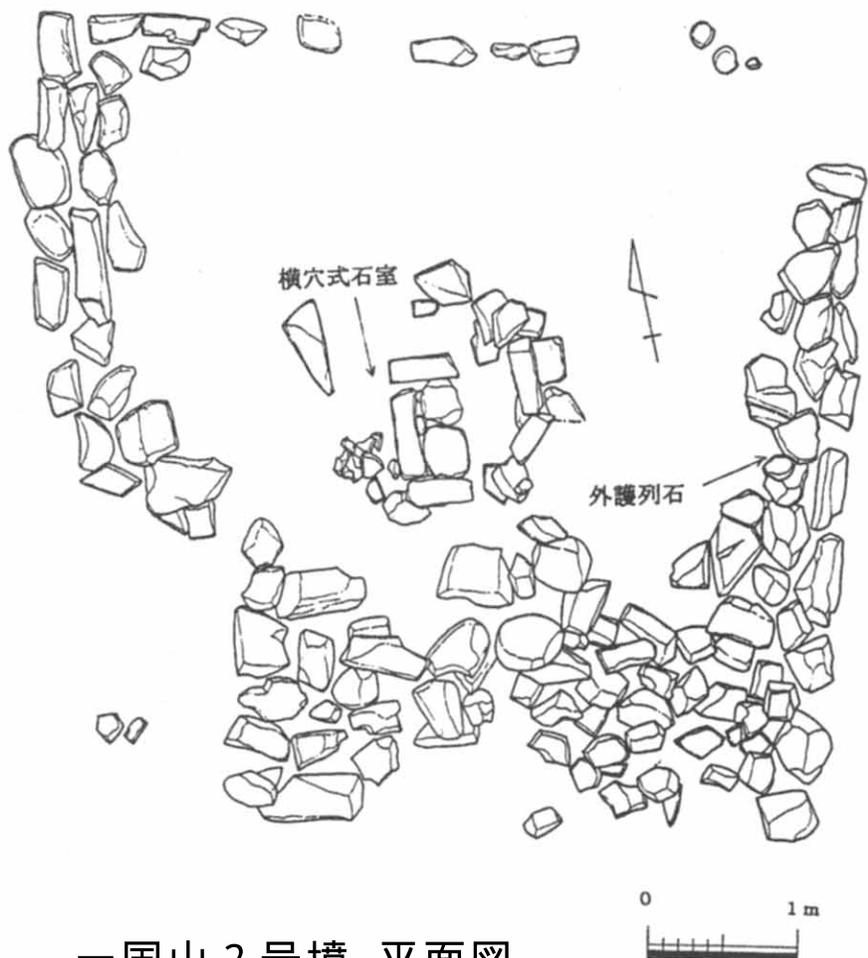
一国山 1号墳 石棺 2

#### 一国山2号墳

第3郭の南側斜面から見つかった、一辺5m程の方墳です。古墳と周囲の地形とを区画するために、墳丘の端に石を並べています。

埋葬施設は、かなり壊されていてはつきりとはわかりませんが、幅約1.2m長さ2.5m以上の横穴式石室とされます。床には平らな石が敷かれていたようで、周囲から鉄釘が見つかることから、この敷石の上に、木棺がおかれていたのでしょう。

年代を示す遺物は出土していませんが、古墳の造りから、7世紀中頃の飛鳥時代の古墳と考えられます。



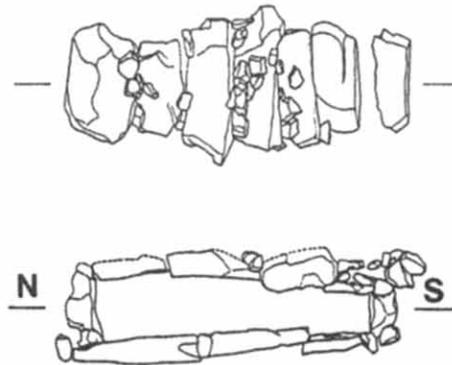
一国山 2号墳 平面図

この時期、古墳は畿内政権の許可なく造ることはできなかつたと思われ、この古墳に葬られた人は、畿内政権と何らかの関わりがあった人と考えられます。

### 石棺3～8

1号墳の南約30m程離れた尾根上に、6基の箱式石棺が見つかりました。まだ調査を始めて時間がたっていないので、墳丘の有無、規模、時代などは明確ではありません。6基のうち1つからは、鏡や管玉が見つっています。

1号墳の石棺が尾根筋に直交して造られているのに対し、これらの石棺は、尾根筋に平行して造られています。また石棺の作り方などから、これら6基の石棺は、1号墳とは時期が異なるものと推測されます。



一国山古墳群 石棺 3



岡山市埋蔵文化財センターご利用案内

所在地 〒703-8284 岡山市網浜834-1

(TEL086-270-5066 FAX086-270-5067)

公開時間 午前9時から午後4時30分まで

休館日 日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日、  
年末年始(12月29日～1月3日)

入場料 無料

交通案内 両備バスまたは岡電バス「網浜中」下車、徒歩5分

- 岡山駅・天満屋バスステーションから
- ・新岡山港行(四軒屋経由・新道経由)
- ・岡山ふれあいセンター行
- ・桑野営業所行(三幡郵便局経由)
- ・湊倉益行

所要時間 岡山駅から約15分

URL

<http://www.city.okayama.okayama.jp/kyouiku/maibun/>

